

特49-188



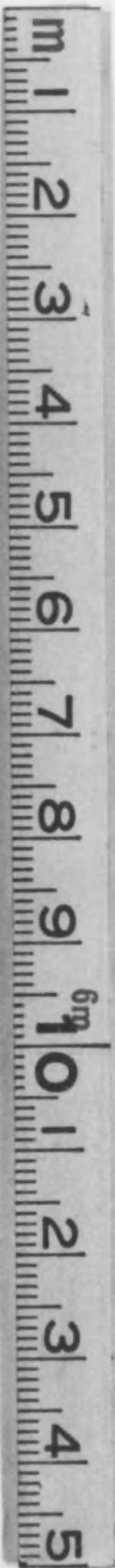
1200800229593

寺 49

188

除虫菊栽培製法全書

国立国会図書館



始



樞密顧問官從二位子爵中牟田中將題辭
前大臣正三位尾崎學堂跋書文學博士井上圓了贊
香園居士御前喜八郎著

訂正

增補

イ
ン
セ
ク
ー
ホ
ー
タ
ー
フ
ラ
ン
ト
除虫菊栽培製法全書

附本場柑橘培養法

實地栽培試驗成績報告所

帝國除虫園

翻刻不許

(第十四版)



強殖

兵産

天皇陛下 明治三十

年六月八日御下命

京都御所に於かせ

られて小倉典侍の

御執次にて除虫菊

(ダルマシヤ種)

御天覽あらせられた

り

前田正名君寄贈

しき島の大和

雄船に

帆何げて

四方よはせ

往く時は

來にけり

正名花押

左ノ題辭ハ樞密顧問官(親任)陸軍中將從二位子爵中牟田倉之助君ヨリ特ニ本主園御前喜八郎へ贈賜ノ直筆ヲ彫刻セシナリ

特49

188

特40

622

正三位子爵

中牟田倉君之助書

本書目次

序言	一ページヨリ七ページ迄
播種法	七ページヨリ
苗仕立法	八ページヨリ
植付法	九ページヨリ十一ページ迄
肥料篇	十一ページヨリ
摘花法	十二ページヨリ
葉刈取方	十三ページヨリ
採種法	十三ページヨリ
株數及收益	十四ページヨリ二十ページ迄
公報	二十一ページヨリ卅二ページ迄
製造法	三十三ページヨリ卅七ページ迄
使用法	卅七ページヨリ四十五ページ迄
褒賞寫	一ページヨリ四ページ迄
附錄	

正三位子爵

中牟田倉君之助書

本書目次

序言	一ページヨリ七ページ迄
播種法	七ページヨリ
苗仕立法	八ページヨリ
植付法	九ページヨリ十一ページ迄
肥料篇	十一ページヨリ
摘花法	十二ページヨリ
葉刈取方	十三ページヨリ
採種法	十三ページヨリ
株数及収益	十四ページヨリ二十迄
公報	二十一ページヨリ卅二迄
製造法	三十三ページヨリ卅七迄
使用法	卅七ページヨリ四十五迄
褒賞寫	一ヨリ四迄
附錄	

特49

01 188

特10

622

説明……………五ヨリ十迄
 全國公評銀……………十一ヨリ十九迄
 名士來訪……………十九ヨリ
 實地開墾の景況……………廿三ヨリ
 書面の寫……………廿五ヨリ
 販賣法……………廿八ヨリ
 殺虫粉代價表(卸シ)……………三十ヨリ
 本場密柑栽培法……………四十一ヨリ

本書目次

除蟲菊栽培法序言

東洋除虫菊株式會社長
 帝國除虫園長
 御前 喜八郎
 害虫驅除法研究會長

除虫菊ハインセクトボーダーフラー下稱し明治十七年在澳名譽領事ゲラルグヒエツ
 テロツト氏來遊歸任後氏の紹介に依て其種子を得たり爾後本園は一意専心其繁殖を
 圖り年を追ふて盛況を來しなるも其公けに知られたるは。廿七年三月三日大阪朝日
 新聞が初めて本園の事業及特異其の有利にして有益なる奇植物なる事を記載せられ
 各新聞雜誌争ふて之を轉載せるに起れり爾來頓に世の注目を惹き各地老農より栽培
 法を問わる此に於て其栽培法を刊行するは焦眉の急務となれり依て本書を公けにす
 除虫菊は蛆、虱、南京虫、蠅、毛虱、羽虫、蠅、蟻、蚕蚊、夜盜虫、根切虫、
 米麥雜穀の害虫其他作物にありては綿、藍、煙草、野菜樹木害虫、蚜虫、毛虫、稻虫
 等有らゆる動植物害虫を殺滅するの奇効ある事已に我國醫化諸學士の試験と實驗に

より明なりとす然りも雖も藥店に於て買求めたるものは効能の稀薄なるものありて蚊、南京虫、蛆、毛虫の如き即時奏効するものも往々効能顯著ならざるものあり畢竟是等は舶來の原物乃ち外國製造所に於て既に茶の粉小麥粉或は莖葉等の種々混合物しあるに内國商人の更に糠黃粉等各種の混合物をなしたるによるものなれば除虫菊除虫劑の偉効を沒す可らず本國に於て製造する如き自家製造の純良品は決してかゝる、効能の薄きものにあらず之を使用するときは如何なる虫類といへども殺滅せざる事なく實に驚くべき効能あるものなり乞ふ實驗に徴せよ

除虫劑を使用するに其虫性の強弱により用法種々あり粉のま、撒布するあり乾花のま、燻煙するあり又液汁として灌注するあり(用法下に記載)其用途頗る多し北米合衆國の如きは外國より輸入するもの年々驚くべき巨額にして其用途は屋内の混虫のみに用ゆるにあらず家畜を初め草木の害虫殊に菓樹、煙草、綿木等の害虫に用ゆるもの多しと云へり我國の如き未だ之を使用する事普ねからずと雖も今猶年々獨逸

澳太利等より輸入するもの亦少ならず聞く昨年の如き輸入額八万圓以上に上れりと(外國より輸入するものは粉末は一箱十六貫目を入れ乾燥花は一箱四十八貫目を詰め輸入税率は特別條約に依り従價百分の五也

除虫花は近時北米合衆國カリホルニヤへ移植して驚く可き巨利を博しつゝ、あるものありと實に謂れなき事にあらざるなりダルマシヤにありては此の除虫菊を以て輸出貿易重要品のひとし其額年々百萬圓の輸出をなしつゝ、ありと云へり)小國の經濟は之に依て益する豈に少しとせんや

本邦除虫菊の種子をダルマシヤより傳播したるは實に近年にあり依て未だ大に栽培に従事しある事を聞かずと雖も(曾て農商務省より種子を下附し栽培せしめたる事あれ共其種子の不良と栽培法を誤りたるため絶滅せりと云ふ)予が栽培實驗によるどきは原産地より遙か我國の方地味適當しある事を發見せり是即ち除虫菊に限らずかゝる種類の植物は如何なる物と雖も本邦に適せざると云事なきは其季候風土の

よろしきによるるべし然るに往々除虫菊の種子は發生し難きもの或は發生せぬものとし又は苗の如きも地味不適當にて繁茂せざるものと誤認する人あり是等は其栽培の方を知らざると且種苗の撰擇を欠くに大に原因する事を知らざるが故なり其實例を擧ぐれば

本園始めてインセクト種子を特に農商務省より下附せられ播種せしとき甲乙數ヶ所に苗床を整理し播種の方法を始め灌水其他注意至らざるはなし然るに甲は發生せず乙は發生后漸次萎縮し悉く枯死す依りて大に失望せり會々播種の際途次（尤も自園中）種子の容器を轉覆し散亂せしめたるを思ひ起し心當りの地を搜索せしに圖らざりき所々に叢生しあるを發見せり直ちに轉植之を培養せしに日ならず繁茂したり（精良種子は意外に能發生するものなり元來除虫菊は其性强硬なる事は已に散亂して少しも注意せざる畝中にては發生する事あるを見ても明なり依て予は只種子の充分なる撰擇と播種方轉植の際とのみ注意する事とせり而して斯の如き粗畧の注意は

反りて能く菊其ものに適せし故なるか爾來播種曾て一回たも發生せざると云事なく漸次大に繁殖せり以後實地試験のため或は之を山頂に或は荒蕪砂礫地に瘠土に膏腴地に寒地に暖地に又は北陸地方霜雪深き處等種々轉栽移植を試みしに是れ亦繁茂せざると云事なく何れも好結果を呈せりと感謝狀を贈らる方多し之れにより考ふるに本邦の地味は原産地より遙か好適しあるや其實験により明なりとす依て本邦此の植物を大に獎勵栽培するに至らば他日其産出の盛大に趣くや必せり而して我國今猶平々多額を輸入しつゝある舶來品の如きは又早晚防上するに足るのみならず又一段の輸出品となるべし已に清韓兩國へ輸出せり當今時勢の變遷を考ふるに海外出稼人次第に増加し従て内地農業者の數を減じ勞働の賃金年々高價に趣けり故に従事の如き安價の農作物は最早收支償わざるに至る此時に當り除虫菊の如き比較的人夫を要せずして其產品の高價なる者を培養するは農業經濟上最も策の得たる者にして實に實業維新の革命動機なり

予は各位特に藥種商及産業篤志家諸氏に勸告す此の有望なる植物増々栽植して歐米各國へ輸出し(例令はダルマシヤ又はベルシヤの如き輸出重要物産たらしめ)將來一の物産となす事を企圖すへし原種を彼れに得金銀を彼より得る豈又愉快の業ならずや我邦の氣候地味人夫を以てせば彼を壓到する容易なり

本草の輸入は明治十七年にして在澳國日本領事ダオルゲ、ヒユツテロツト氏により始めて本園紹介せられたり依て本園の如き栽培日未だ深からず然れ共其産額逐次増加し今や益盛入の域に進り而して目下除虫菊の増植するよりは層數層除虫濟の販路擴張せられつゝありて到底需用を供給し能す爲めに干花の相場年々騰貴し買人競争猶進んで翌年の産出花を前約するの盛況に及べり是れ除虫菊現今の實況なり斯の如くにして一時の非常の發達せんとする其原因種々なりと雖要するに本邦品は已に混物少くして其効能舶來品に優る數等なれば漸次舶來粉の輸入を防禦し之が代用にせらるゝと一方に於ては從來只一部の蚤取粉として使用せられしも

の近時種々用法を發明し蠅蚊遣を始め動植物寄生害虫殺滅に使用すると稻虫殺虫除虫液を製造する事多に因る等畢竟用途の擴張せられし結果と云へし其盛況能く盡す處にあらず産業篤志家幸に軽く看過する事勿れ又衣服米穀貯藏に必要也

○除虫菊栽培法

香園著

除虫菊播種季は 秋季を可とす尤も春季になすも可なり但し播種の季は秋は八月より十壹月まで春は二月上旬より六月上旬まで蒔きて發生す又夏季土用及び大寒中の外何時蒔も發生すれども春秋二季に蒔くをよしとす就中秋に蒔はよし春秋共彼岸を忠とし其前後三ヶ月を可とす

蒔方 旭日の早照する且つ轉鬆なる土壤の地を撰び深く耕し能く土塊を碎き地面を平らにし之に充分糞を(但水肥)注し篩にて粉土を篩ひ落し其上に密に種子を撒布し種子の上に薄く木灰を混ぜ細粉土を種子覆はるゝか覆はれざるかの如く)

細き篩にて篩ひかけ薄き藁薦又は筵にて適宜覆すへし。木灰を混るときは蚯蚓の害なく肥料となり發芽を早からしむ。覆は時々日暮方翌日七時ころ朝日照射する頃まで取り除を可とす尤も降雨の際注意して覆をなすべし強雨のため種子埋没し或は流失する事多し

種子發芽すれば覆の下に竹又は木の枝を挿入し種を壓ぬ様すべし又朝暮時に覆を取り除き日光を加ふるを良しとす多量蒔付は自然に放置すれば能く發生す播種の際は藁又は塵芥等は施すへからず發芽後濕氣に過る腐敗するあり覆は大略二葉となりたるを全く取り除くべし

野菜類の如く極て發生し易き點あれば覆土は充分細かく且薄く撒布し覆の取り除き苗床乾濕加減注意すへし比較的乾燥地宜し

假植出し季及び植出法

植出しは 發芽五六週間後稍々植出し能ふ程成長せしものを植出すすし。但し小

くして植出し難きものは習春二月頃より成べく早く植出すを可とす

植方は先濕氣せざる様適宜畝形を造り能く土塊を碎き方三寸餘間に植出し置くべし植出當時は肥料を施すべからず數日の後糞汁又は干鰯餅を粕適宜施すを良とす但し多量の肥料は反て宜しからず春蒔きは同じく發芽后三四十日間に植出べし

本場所植付

轉植は 秋蒔きにして既に秋季植出し成長しあるものは三月頃より梅雨の候迄又春蒔の分は全年初秋より翌春へかけ本場所に轉植するを良しとす但し宿根性の者ゆゑ一日早ければ夫丈け能く成長するものなれば一日も早きを利とす春蒔は秋季本植す

轉植方法 田面なれば畝形を造りなるべく濕氣せざるよう注意し畝上に間合凡七八寸をへだて、植ゆへし極乾燥なる畑地にありては畝を設くるに及ばす其ま、植ても可なり一反歩株數凡六千乃至七八千本とすべし

植付當時は施肥すべからず若し肥料を施すときは、にんじん粕水肥等已べて根株の外そとに施すべし但し水或は風呂水二三回施すべし

植方深淺は其中を得る様注意すべし深さに過るときは只に枝葉のみ繁茂して往々開花せず又淺きに過るときは枝葉枯凋して繁茂せず故に莖際と地面と平衡ならしむべし

植付後の手入は時々雑草の艾除に強ひべし併し別に鋤鍬の耕耘に及ばされ其時々淺く耕すは素よりよし

夏季炎熱の候時々注水するをよしと説くものあれ共全く注水すべからず早魃に際し注水して枯死せしむるは本草栽培者實に十中八九なり本園の経験特に注意するところなり未だ早魃の爲に枯死せし事なし

除虫菊は其性強硬なれば屈強上苗に仕立てるときは能く日數十數日を保ち能く遠地に轉送するを得一既に本園の如き保証して如何なる遠地へも轉送し曾て枯死せ

しことなし諸方よりの謝狀にて知るべし一屈強苗の仕立方は植場の地質と施肥の加減と數回の轉植及堀取りの扱ひ荷作りきまの注意等已て経験よりなすものなれば茲に記載し難し要は只充分根幹を養やしなひにのみならず専ら細根即ちヒョキ根を増殖せしむる事植木師の植木を作る如し故に普通生育天然に放置したる俗家の苗は遠送てんそうに適せざる者とす必ず數年來熟練の専門家に於て遠送の目的を以て豫め別段の手入を爲し置かざるべからず

肥料は鱈粕たらぼを最良とす豆粕人糞木灰等もよし但し施肥の際人糞等已て葉莖にかゝらぬよう注意すべし且つ過量に施せば却て根株を腐敗せしむることあり

肥料及肥料季

肥料季は 秋季を最好とす。但し若苗に施す肥料は春秋二季を可とす。轉植後の苗の施肥秋季に限る所以は他にあらず凡そ植物は肥料多ければ其莖幹肥大繁茂する勿論なれども隨て開花も亦概ね後るゝを常とす然るに除虫菊は其收入の多寡肥料

季節の當否より(當年の花を用ひんか爲め目下)寧ろ早成を希望す春季に施す肥料は菊其植物には好季に相違なければども是か爲め莖葉繁茂に過ぎ肝要なる除虫菊入用のとき(乃ち蚤の發生し數万の除虫粉需用頻繁なるとき)開花數日を後る、憂わり故に秋季肥料を施し置き開化前漸々肥料を欠乏せしむるにあり之れに反し若苗は幹莖の繁茂充分望むものなれば陽氣盛なる好季に乘し肥料を施せば數日の後驚くべき成育をなす

開花及摘花

開花は 土地により多少遅速あれども先五月下旬満開積雪の如くなるを一番摘み取り又數日置けば再び満開す斯の如き事實に三四回を経て六月中旬採收を終るなり摘花法 己に開辨せし盛花を籠に摘み取るものとす其方は花頭のみ摘み取るを良とすれ共普通の摘方は中人指に両指に花頭を挿み摘み取を常とす斯くする時は少しく莖附着すれ共摘み方便利なり女子一日四五目摘採す但盛花のみ摘み取り蓄花

は次回に開辨を待て取るものとす採收の好季は花の盛りを過さすべからず

葉莖刈取方

葉莖刈取は 摘花の後地上凡そ一二寸を殘して刈取るべし莖は堆積し置き稻田に入るべく乾かして蚊遣りどすべし又粉末にして正粉及粉粕に混し蚊遣り線香を製す

採種及選種方

採種は 先づ種子を取らんとするに其植付畑地の至極乾燥地にして排水の充分なる餘り沃肥に過ぎる所を撰定すべし濕地にして繁茂に過たる處は霖雨の際時により腑敗する事あり依りてなるべく花數の少き處を利とす

採種季は 前記播種成跡表に示す如く充分熟實せしむるを良しとす併し久しく其まゝに放棄する時は根株枯死す其好機は枯縮せし塞心の飛落する時を良とす

除虫菊は 其株年々枯死する者にあらず數年成育し年々花を開くと年一年増加す但し數年經過し(勿論五六年はよし)其株の周りに火鉢の如き大さになれば一旦之

を掘起して一株を十余本に分ち更に其一本を植直せば一反歩の物一町歩に擴がり又々其株繁茂する者也

是實に栽培の秘訣にして利益の最大なる者なり何となれば已に花にて収益を得更に株にて殖産すればなり然とも苗賣主義の人は此法を秘して世に教へず

植付株數及播種量

除虫菊植付は一坪に付凡そ二三十株とす即ち一反歩六千株乃至九千株とす

但し初年にありては一步に付四五十株以上を植ゑ先づ充分其年の利益を收め翌秋或は後年繁茂せし時其幾分を轉植するはよし

播種は十坪に一升乃至壹升五合を適度とす尤も數十日の後他へ植出するものとす右蒔付の苗は發生后之を他へ假植出しを爲す其割合一畝歩に二三千株即ち一坪に七八十株乃至百株内外とす

鴻益條目摘要

除虫菊栽培の利益は擧て數ふべからずと雖も其大要を摘し左に數項を列記す

第一収益 の多額なるは他に其比を見ず普通作物の十倍以上に當る事確かなり而も

概ね純益となるを以て一反歩植付置けば一町歩の地所を所有するに均し

第二販路 内外の需用最も洪大にして際限なく内地の需用は年々に増加し商人大に

着目し其買入を競争す目下英獨澳米の各國より日本に輸入し大利を得る者あり

第三耕作 他作物の如く年に二回以上播種植付刈取仕分けの煩なく殆んど放置して

唯草を採るのみにて歳々繁殖す植付の年又は翌年より勞なく一定の歳入あり

第四地味 地質を撰む事なく不毛の原野礫确の山巔傾斜地砂礫の荒地にも生長す又

風の強き場燥乾の早き所にてもよく他作物の培養せられざる地にも適する也

第五無難 地作物の如く風害水害旱損虫害鳥獸の被害なく毎年無難に一定の收穫あり

是は此植物に限る夏秋風水の起る頃は已に收穫後故綿の如き難なし

第六氣候 本邦の緯度大に適當し全國概ね生育せざる地なく其産品は一層優等にし

第十八 他果物又は蒔の如き腐敗し易き重量多き者と違ひ腐敗の心配なく輕量にし
 て高價なる故運搬不便の地に於て耕作するには是より便益なる物なし須く稲作に
 代ゆへし

第十九 百般植物特に果樹の害虫の如きは其の木の下にて該菊を燻ふれば皆落ちて
 死す室内の蚊も亦然り試に室を閉ぢ粉末干花を少許火鉢に投せよ蚊軍雨下す

第二十 盛んに培養するに従ひ次第に其名高くなり益々得意買人の多く増す者なり
 故に多く作れば直は下るとは一般の信する所なれども事實は之に全く反し栽培の
 最も盛なる當地の如きは年一年益々高價に賣れ來れり

第二十一 土地の價格を高むる効あり當地方にて從來九十圓位なりし山畑去年三百
 圓にて賣買ありしが如きにて明也は一に除虫菊植付の爲め買入競争となりし故也
 第二十二 植付の株は漸次繁殖して價格を増す故坐ながら野外の財産増加するの結
 果あり一万の株は一万圓の代用を爲す製造至て簡易にして販路甚だ昔きは蚤取粉

の特色なり宇宙の動植物及人身を害する總ての悪虫を撲滅する者は此除虫劑なり

第二十三 収益平均表は左の如し一段歩計算に改む當園作附平均なり

本表は製粉卸賣額なり(本園撰定最良優等ダルマシヤ種の實績)

一金壹百貳十圓粉末壹百五十封度代一ポント八十錢替(一ポント百廿目強)

一金二圓五十錢 莖代

關東に於ては收穫關西の如くはあらず且ベルシヤ種は此のダルマシヤ種の收穫の半額に上らず關西の地氣候一層除虫菊に適せる深し

收入合計金壹百貳十貳圓五十錢也 (明治二十六年迄平均)

右は自家に於て販賣の勞を取らず商家へ卸賣の計算にて若し自家にて袋入を製して
 小賣人を設くるときは二百余圓の收入あれども又費用を要するを以て暫く卸し賣り
 を以て算す干花其儘に賣卸するも収入に大差なし

獨逸リイデル社製造品は一封度上等壹圓廿錢にて賣買あり我製品は之に劣らず效能
 に於ては遙かに優れりと雖も未だ完全の器械製粉を行はざるときは細末の度に於て

少差あるを以て代價八拾錢とすれども其實際の價直は壹圓以上の品位なり

一内金廿五圓 地租肥料人夫雜費等宛て

但實際は斯程を要せざれども充分豊かに計算す（他作物の如く年々數回種蒔植付湯飼中打の人夫を要せず只春秋二三回除草の爲め人夫と花干し人夫を要するのみ差引純益一反歩金九十七圓五十錢也

是は單に毎年收穫の花賣上の計算にて其他種苗等の商利は豫算外とす右の直段は實際に基き差違なきを以て本園に於て販賣を引受可申候也但相當手數を申受く初年に於て要する苗代は其株の増價格に依り殘存して消滅せざるを以て毎年度の收支計算に加入せず何となれば植付の時は苗代に多少の資本を要すれども其株は長へに野外に存在し年を追て増殖する故永久消滅せざればなり

除虫菊の効能は己でに述べたり茲に農商務省發行

農商工公報を以て在澳國領事及び在米國領事より除虫菊に關する我政府への報告を

世に發表せしめられたり参考のため記載す有益の件なれば熟覽あれ

明治十八年五月一日農商務省 農商工公報第三號

○除虫菊花粉在澳日本領事ゲオルク、ヒユツテロツト氏は昨年我國に航して各地を周游し貿易上緊要の件を調査して我政府に報告せしがそのうちに左の一項あり

極めて高價の物品にして日本政府の注意を仰ぎたき者はいはゆるインセクト、バ

ウダイ、フラワイ、即ち菊花の一種にして或は天然に或は種藝によりて高山荒蕪の地

（澳國領ダルマ）に繁茂するものなり此植物の花を集め乾し且粉末にする時は以て

（シヤ國尤多し）に繁茂するものなり此植物の花を集め乾し且粉末にする時は以て

虫類を防ぐべし、該花の乾物は俵に入れ其粉を桶に詰めるなり花も粉も共に貿易

上高價の物品なり北米合衆國は両品とも歐州より大量を輸入す其價は該花の收穫

の多寡及び品質の如何により本場にて乾花一貫目につき一圓乃至三圓の差あり余

が考ふる所に據れば該種の菊花は之を日本山野の荒蕪地に蒔かば必造作なく日本

のよき氣候に慣れて忽繁茂すべし而して山野の貧民にその花を摘み採るを以て一

種の職業を得へし今その一証をのけんにダルマシヤの一小國といへども此品の貿易によりて毎年數拾萬弗の歳入あり

余は日光山中及湯本より沼田に達するコンセイ時コンセイに於て右の品によく類したる一種の菊花の山野に自生したるを見受けぬ唯異なる處は花の形小さくして香氣十分に強からざるのみ兎に角く日本の山野荒蕪の地には該植物の適せんと知るへしと此報告を獲て彼此該植物の事どもとりしらべしにまた、北米合衆國郊野新聞に左の圖説を揚げたり但し此に挿入せる畫は原圖の一斑に過ぎず（原圖略す）

爰に掲げたる圖はプレスルム即ちクリサンセムム、コリムボツムソムと稱する菊花なり

虫につきて此野虫の野あることは屢本紙に掲載したれば收穫物を害する諸虫の驅殺劑に此野菊を用ひて有益なる試験をなしたるシヅキ、ソレイ氏が比菊の有用を批認せる事は看客諸氏は尙記憶せらるゝならむ

余輩は爰にこの野菊の詳説をおくべし野菊は奇なる鋸齒狀の葉ありて白或は黄の花をもてる硬艸なり之を培養する時は凡四ヒート一フートは凡我一の高さに成長すべし

其地肥沃ならば大抵四ヒート以上にも達すべしこれはシーパーセニウムと稱する菊の類に似たり但し金羽と稱するものは自から異種なりとす

野菊の野生は一フート乃至三ヒートに成長す該菊は葡萄牙より端西、澳太利及び土耳其に連續せる中央及び南歐州の普通植物なり現今米國の博學數輩は此菊類を左の如く短簡に略説せり

野菊各種の花頭を乾燥して細粉となしたるものは虫類を避くるの能を有し且人獸及び植物に害なきことはいくく之を知れりそは波爾西の虫粉或はダルマシヤの虫粉と稱して家中の昆虫を防ぐために用ひたりこれを今までは小瓶に入るゝか或は包となして高價に販賣せり

波爾西虫粉は、ピカルニウムは又ピロシニウムの花をもて製したるもの、又ダルマシヤ虫粉は、ピシチラアエイホリニウムにて製したるものにして、ダルマシア人へルセゴアキナ人及びモンチチグロ人中に知られたり、オランダリチ、ロンドンのウキルレム、ソインドルス氏は、昨年校粉を各種の虫に施して之を試みしに、家外の虫を除くにも満足なることを示せり。

又千八百七十八年、明治十一年の夏、博士リレイ氏は、該粉を綿の虫に施して、著しき効驗を願はせり、即該粉少許を撒りかくれば、其虫忽植物より落ちて死すと、又テキサスのコロンパスに於ても、廣く該粉を畑地に試みて、十分に効あることを證せり、因て余は、動植物の害なく、其功能のはるかに、他品に勝れたる、快復劑なりと認め、唯その價を減せんことをのみ望めり。

ダルマシア人ミルコ氏ハ三ヶ年間カリホルニアに於て、斷えず反別を増し、擴げピレシネーを耕作して之を移し入るゝとに盡力せるが爲め、大に信用を得たり、カリホル

ニアにて作りたる菊花粉は甚だ實効あり、此價ある植物は米國の中部及び南部に於ても通常適宜成育せらるべしと假想せり、もし該品多くあらば、現今捌けるものよりも其品位は必精良となるに至らむと

又或佛人の記したるものに左の説あり

殺虫薬は佛語にブウードル、アンセクナシド、英語にインセクト、パウダーといひ、アントミス、ビールトリユムと稱する植物の花をもて製したる粉劑なり、此菊は亞拉比、阿爾及び佛蘭西の南部に産す方今は其勳用あるため、諸國に於て培養するとなれり、此粉の製法は、此植物の花を採り乾燥して粉末となすなり、これを最良品とす、然れども往々この莖葉をも用ひて製するとありて、これを下品とす。

此粉ハ諸虫を殺すの功あり、就中人類及び獸類ノ蚤蟻虱を殺すに最妙なり、根も之を粉末として殺虫薬とす。

此用法は歐洲に於ては吹子に入れて散布するものなり、その用量は寐床一個につき

六グラム 凡我一を年に二回施さば壁虱の産する思ひなし、
 右の諸説、據れば其極めて有益なるを明かす、而して其効用を際するに從來歐羅巴
 にては室内の小虫を防ぐ爲めに主用し、この事これを田圃の諸虫に施せるは蓋米國近
 年の試験に出するが如し、

又大日本農會農藝委員昆虫研究所長昆虫専門學者名和靖氏は左の如く述べられたり
 儲樹木は發生して驅除に最困難と感ずるは彼蝨蚋虫より之か驅除の良法なきやとの
 問と受くる事多し然るに諸雜誌には油を埋込ひべし杯ぬれど實際に於て効果を見ず
 又樟腦又は石炭油を注入するは手間を要し枯損の患あり其法完全と云ふべからず因
 て予は注射器を用るの最良便なるを認たり注入する液劑に依て能く虫を殺す一反
 歩許少時に了すべし予は今試験として除虫菊粉十匁を水壹升に混和して用ふ然る時
 は樹を損傷せずして害虫を驅殺するを得是今日の適法なり此考案によりてテツボウ
 虫の驅除を爲せる人於て注射器を使用するに其驅除の施行大に便捷なるのみならず

す桑園にテツボウ虫を見ざるまでに其効果を収めたりとて予は謝詞を述べ來る人儘
 之れあり云云

明治十九年四月十五日農商務省 農商工公報第十四號

○菊花粉 本報第三號に掲げたる除虫用菊花粉の事につき在米國領事館よりの報あ
 り左に抄録す

インセクト、ペウダー輸入インセクト、バラダーは箱詰にして其壹箱の量目百
 二十磅より百五十磅を容る昨年中の輸入原價の總計は五万五千八百八十九弗なり
 紐育府に於て卸賣直段は量目壹封につき二十六仙乃至三十二仙なり然れども市況
 と供給の模様によりてはや、これよりも高價に赴きとありこのインセクト、パウ
 ダーは虫類を除去殺害するの用に供するものなり

インセクト、バラダー、フラワ このフラワは俄造りにして其壹俵の量目は四
 百封乃至五百封なり昨年中の輸入原價總計は一万千八百八拾弗なり而してこのフ

ラワーは彼のパウダーに代り年々輸入増加の方なり當府に於てこのフラワーの卸賣直段は一封につき廿五仙乃至三拾仙なり然れどもこれまた需要と供給との模様によりてや、高價に赴くことあり

以上の二品は重に澳國トリエヌトより輸入し來れどもまた敦倫及ヒリバプールよりも多少積來るものなり

此二品につきての市況を聞くにマラダーの方は混交物あるを恐れて需要者これを忌むの模様あれどもフラワーの方はこの恐れなきがため漸次増加するの模様なりといふ且二品ども輸入無税に屬するものなり

明治十九年六月十五日農商務省 農商工公報第十六號

○除虫用菊花栽培法 インセクト、バラダー、フラワーのとは農商工公報第三號第十四號に掲載して聊注意を促したるに果して各地の有志者各種の菊花を寄せて鑑定を乞はれしもの十數人に下らず其注意寔に到れりと謂ふへし然るに今澳國ト

リエヌト領事館より其種子に栽培書を添へて贈り越したれば種子は取あへず南方地方に分ちて試殖せしめ茲に來書を節録して栽培法の大概を示す

今般贈る所の除虫用菊花種は有益の植物にして日本の風土には最適すべく方に繁殖するに於ては日本の一大産物となるへし此種は七八月の頃餘り膏腴ならざる淡泊の地にて日當り好き場所に播種し而して過度の水を注ぐべからず播種後凡二三週間に萌芽すべし春季に至り少しく肥料を施し置ける地にて成るべくは石灰を含有する所に移植すべし五年より八年まで五月に花咲く其花の長するに及び花のみを切り或は幹の上部を併せて切り取り而して其花を摘採するもあり然れども初に花のみを摘むを良とす

摘採したる花は最初日光に曝して空氣の流通善き所に貯へ置き其乾きたる花を揉み碎きて除虫粉となすなり是れ即重要高價なる貿易品にしてダルマシー利 塊地より米合衆國に輸入して消費高の最多きものたり此の除虫粉の芳芬鋭こゆゑ小虫を撲滅する

の効あり夏李中毛皮毛布其他凡て虫害の恐るる物を貯蔵するに此粉を用ふ殊にダルマシの除虫粉は品位價格共に波斯國産に優れり

ダルマシヤ種除虫菊花を培養する地は南受向の地よからん及霜雪旱風は敢て害を與へず且沃土に播種するに及ばず瘠鹵なる石地則不毛の地にて足れり唯日受け善き塲所を擇ぶへしダルマシの播種地は海面より三百米以上なれば日本に於ては九州四國の南方其他諸山不毛の斜面に培養せは可ならむ然とも日本中何地に適するや實驗の爲め同時に諸所に試作するを至當とし若し能く風土に適せば他物の培養し能はざる不毛の諸山と雖一面に此菊の繁殖するを見るへし然れども初年の間を絶へず菊苗を植付けざるを得ず故に初めの程は必要なる種子を收むるの目的を以て培養すべしダルマシは一小國なれ共除虫用菊花粉百基に就き平均四十弗より七十五弗までの代價を以て輸出し毎年其價格五十萬弗の巨額を收む云々(以上農商工公報)公報の記事斯くの如し其有望なる疑を容れざるや明かなり

(附言)

予か試験のため北陸地方雪國に栽培せしめたるものも極めてよく好結果を得たり

聞く米國に於ては農務局に於て三十余年前より毎年有益の種子を買上げ之を兩院議員農會等へ配布し一昨年は四十六万余斤昨年は二千万余袋と二百八十余石とを配布せりと我邦に於ても此制に倣ひ各府縣郡村農會の事業として有益の種子を買入れ會員に配布すへし

除虫劑をして有効ならしむるには施す處の虫性により各使用の方法異なれば是れ亦斟酌して用ゆべし

又除虫劑を施しても其虫の性により即時奏効せざるものあり凡へて強硬なる虫性にありては數時間或は數日の後死滅すると常とす所謂蛆蚊の如きは即時死すれども蚤虱の如きは數時間の後煙草虫の如き數日の後初めて死滅するを常とす
植物害虫に使用試験して有効なるを認めたるは米國博士レイ氏の漸く近年にわれ

ども予が如き已に實驗して好成跡ありし事多し乃ちすくも、あぶら虫、芽喰虫等に用ひて充分奏効せり又果樹の葉を喰らい盡す毛虫の如き能く殺滅せり
右所掲の説明は要を摘の繁を省き簡に従ひ拔萃せり猶漸次應用の範圍を増すべきを証す

殺虫劑製法 (一名のみどり粉)

殺虫劑製法 至りて簡便なるものなり即ち已に摘みたる生花を炎天に能く燥乾せしめ而して挽臼にて粉となし其儘用ゆ又米搗臼にてハタキてもよし但金杵を用ゆべし金杵とは櫛の木の杵の先をへ鉄輪及び鉄釘を密植したる也
但し降雨打續くか或は乾燥充分ならざるときは火氣にて乾し粉とするべし
又蚤の發生の頃は驚べき多く需用され爲めに品切れとなること多し必らず豫しめ準備を要す此際に當りては乾燥せしむる時日なき故人數を以て細かく切りて乾すへし然るときは二三時間にて乾燥す(但し細斷するときは功能多少稀薄となる)發賣せんと欲せば挽きたる粉を篩ひ細粉として適宜に袋入又は罐入として賣卸すべし併し殊更に小賣をなすに及ばす多くの藥種商買入れに來るに就き其儘賣却すること便利なり商人一戻其味を知れば以後花を乾かすに及ばす生花の儘能く賣れるものなり未だ其味を知らざる地方に於て小賣を開けば意外に賣行

多く年毎に買入を増す者也

殺虫粉使用年内余分となりし時は罐又は壺に收め密閉し置くを良しとす若し香氣脱却せば再び火氣にて炮して使用すべし

製方秘法

摘花 好季は蕾花若しくは花心の肥満したる時よりは將に殆んど満開して塞心花の稍開かんとする時を最良とす

但し満開せざる蕾花を摘採する時は收穫甚だ少く且殺虫に必要な揮發分を含む有する花葉未だ充分ならざれば効能亦薄し併し満開して肥大に過れば花心中の揮發分漸次消散し種子形をなせば隨て香氣薄く殆んど無効となる故に開瓣后五六日内に摘み取るを良しとす

乾燥 薙又は板の上になるべく薄く晴天四五日間曝し花心乾きたる處で濕氣せぬ罐類厚紙袋又は壺に收むべし若し乾き不充分の時は製粉變色す併し厚干のため

日敷を要し或は徒らに永く曝す時は花心の黄色と共に香氣脱却し無効なる故に中心乾きたる時は直ちに收め入るべし蔭干説の如きは取らぬに足らず

香氣發揚 製粉となす時霖雨なれば火氣に炮すべし但し火爐相當の箱を作り四方及び上部を紙にて張り之に紙底引出し數個を挿入 此の中にて炮すべし漸く火氣の爲め其稍濕氣を呈し次で乾燥すれば取り出し暫く熱氣を冷し而して之を先白にて搗き(器械鉄臼にて挽き)挽きども反りて搗き方便利なり(大畧粉となし又之を挽き白にて挽くべし簡便にして其出來甚早し但挽臼搗臼何れか一方にててもよし晴天なれば日天に干して其儘粉となる故炮爐に及ばず

菊花は蔭干にしてよろしと云ふ人あれ共多量の花は到底此の手敷に堪へず日干しを便とす又製粉の候往々霖雨あり此時に際し非常の需用に按ずる場合には廣き竹簾を造り其上に菊花をならべ下に火鉢を入れて温室を造り乾かすべし又炮烙にて乾かすもよし稍乾きたる時乾燥の空氣に晒すべし又近時發明の乾燥器を

利用せは一層妙ならん

除虫液混合

燻烟用混合物は 前記莖葉又は錫挽屑等燃質物を混すべし撒布用は麥粉麵粉木灰混すべし

但し混合は三十時間前たるべし

除虫液 混合量は正粉百廿匁に水一石を加ふべし弱性の虫類にありては一石に五十匁を混して効あり且つ石油乳汁若干を混するもよし

強硬なる虫類にして前記液汁に感じ難きものへはアルコール又は下等焼酎混して効ありと混合量は下等焼酎なれば一石に凡そ五升を加ふべし

アルコール、アンモニア、石鹼を混合して製造する時は一層有効なりとす混合量は正粉五百目に一升五合の下等焼酎(若しくは夫に相當するアルコール)と一升のアンモニアを加へ五日間密閉し之れに二斗の蒸溜水を加へ五日間暖室に再び

密閉し置くべし是乃ち除虫液の原料とす使用は之れに蒸溜水を加へ用ふるものとす

蒸溜水混合量は 弱性の虫類に用ふるものは前記原料五合に一斗の蒸溜水を加ふべし強性の虫類に用ふるものは一斗の蒸溜水に原料凡そ三割を増し用ふべし

但し之れに石鹼を加ふる時は一層有効なりとす混合量は弱性の虫類に用ふるものは前記の量に中性石鹼百四十目を加ふべし強性の虫類には二百五十目を加ふべし

又石油を少許を加へて有効なりとす

用法

用法は 撒布燻烟或はアルコール液とし浸劑となす等種々あれども南京虫蚤虱類には寐床の中又は其下に撒布し或は疊の繼目に入れてよし衣類毛布毛皮書畫幅書繪箱杯に其中に撒布してよし

除虫液 使用法は例年害虫の恐れある地方は植付の際一反歩に付該液一升内外の割に行き渡らしむるを要す、又害虫發生せし時は水田ならば長さ三尺徑一寸五分位の丸竹の節を穿ち下底の一節のみ残り置き其節の上に小さき穴を穿ち夫れに該液を一反歩に付一升位の割合を以て盛り入れ之を携へ歩行しつゝ、徐々に株と株との間に灌ぎ入るべし、又前法の如く水口より徐々流し入るゝも好し、而して柔軟なる竹の類を以て其害虫を拂ひ落さは須臾にして撲殺し盡す事を得べし、又害虫猖獗を極め到底普通的手段を以て撲殺し能はざる時は本法を毎日一回三日間連施せば必ず驅除することを保證す又螟虫は孵化の時季に際し前法に用ゆれば是亦容易に驅除し得るも既に深く莖中に侵入するときは其使用法尤緊要なり

除虫菊製「苗代地施用」害虫豫防液

此の豫防液は強大なる殺虫力を有し其臭虫は殊に害虫の忌避する所なるを以て春季稲苗の成育中一反歩に一回五勺の割合を以て苗田に散布すること移植前凡三四回

なれば稲苗に附着せる害虫は悉く之を驅除し他より飛ひ來るものは其の近傍を避けて逃れ去るが故に稲苗に卵を産み附くを憂ふ害虫の繁殖を未然に防ぐには此の液に若くものなし現に本邦三老農の一人と聞えたる故中村直三氏并に讃岐の老農奈良專二氏の如きは此方法を以て好結果を奏せしめられ其他此液を用ひて好果を奏せしもの一々擧ぐるに違あらず而して此液は只ば稲邊の驅除に止まらずして凡て農作物の害虫を驅除するに用ひて特効あり又粉末を苗代に散布して植付前の稲苗に産附せる幼虫及卵種を剷滅する法あり左の如し

施用法米稻の害虫は多く苗代にて其種卵を産附しあるに基因するを以て第^一着床苗代に散布すべし其法方植付前可成晴天の日に先づ苗代の水を落し此粉末を苗の上より撒布すへし左すれば粉末は苗の株根にも附着し諸害虫は勿論其卵種をも剷滅し而して苗には寸毫の害なく稻虫の害を未然に防ぎ其費用は一反歩の植付用苗に僅々廿錢内外とす故に米二升にて一反歩の虫を除く割合也而して其効能は果し

て幾許なるへき是れ各地老農の試用を乞ひ其報告に依て彼是参照平均を算出せんとする一大眼目なり而して大に其實効を確認されたる方に爾後多少を栽培せば遂に無代價を以て驅除し得るに至らん

官設農事試験場畿内支場長農學士岡田鴻三郎君ノ講述ニ係ル浮塵子驅除法同年六月十四十五十六三日間大阪毎日新聞ノ掲載セル所口大体ハ之ニ異ナラズシテ施用法中同氏ノ説ハ水ヲ三四寸ノ深サニ張ルト云フ点ハ予ノ落水説ト反對シ及ビ分量ノ稍々多キハ氏ノ説ノ異ナル所ロトス今全氏ノ説中一二ヲ左ニ拔萃ス

(前略)驅除法の事に就ては御話が澤山あります第一が時期です一昨年大害を受けたのは全く時期を失ふたからで(中略)うんかには卵の時代もあれば幼虫の時代もあり亦成虫の時代もあります(中略)其費用を要する最も少くして巧の最も大なるは幼虫期に驅除するのであります勿論苗代に於て充分行なわなければなりません實に是が必要であり舛苗代に於て驅除する方法は幾通りもありますが大別すると

網のような者を以て捕へ殺すと藥品にて殺すの二通りに過ぎません捕虫網にては専ら成虫を捕獲し得るも幼虫を捕ふる事難きの不利があります藥品を使用する方は種々あります其一二を挙げますれば

一 除虫菊粉を用ふること

苗代に三四寸の深さに水を張り三十歩に對し花粉凡そ百五十目計りを投ずるの法であります

一 除虫菊粉エキスを撒布すること

噴霧器の如きものにて右のエキスを苗代一面に撒布するのであります其濃度はエキスの濃淡に應せなければなりませんか茲に其分量を擧げることが出来ませんけれども先づ三十歩に對し一回三四十錢位を要するでしやう

右二法は苗を損傷せずして害虫を驅除し得るの便はありますけれども今日の場合とては容易く之を得ること難きを遺憾に思ひます(以下略)

農商務省調査害虫驅除要覽に曰く

主要害虫驅除劑

除虫菊液 水 三 瓦 兩者を使用前廿四時間に混
除虫菊一オンス 和調製を要す即時使用せん

使用法 如露にて撒 には五分乃至十分間水にて
布すべし 煮沸し其煎汁を用ゆべし

除虫液及豫防液は我邦に於ては未だ充分に使用する事を知らざれども明治三十年
に於ける害虫發生に使用して功績顯著なりしより該液販賣店東京益農商會の如き
二十萬兩以上の注文を受け需用に應ずる能はざりき又一時九州筋の汽車は稻虫驅
除用油液の運送の爲め荷物滞積したるは當時の新聞に依て明かなり虫害の影響亦
大ならずや

牛馬犬猫鶏其他家畜の毛虱蚤羽虫類は毛中に振り掛くべし
蚊遣りは粉の少量或は乾花のまゝ、燻ぶべし烟りなく且佳良なる香氣あれば夏中の

使用甚だよろし

除虫花粕 燻ぶるも効能顯著(夜中蚊軍來襲の時は殊に効多し)立どころに混酔殺
滅又は飛散し再び來襲の憂なく復た蚊帳を用ふるの要なし而して其戸障子を閉せ
ば悉く轉落殺滅する事蚤よりは奏功一層早し(夜中讀書或は安坐蚊軍來襲の時極
めて少量をくすべ試むべし狼狽轉落奇妙に全く殺滅す)

又蚊遣り線香を用ふるもよし是れは混物の方多く僅かの除虫菊を加ふる也

(蚊遣り線香製法は二番粕に麥粉又は菊莖の粉末にせしものを混し海苔にて練り合
すものどす) 通例蚊くすべ香又は蚊やり香は混物大体にして僅かの除虫菊を加ふ
る而已なれども百目一圓に賣れり

蠅驅除法 右線香蚊遣りとする時は蠅も亦飛散す尤も夜中天井裏に止りある時正
味粉燻ぶれば殊に効多く翌日は失跡す

米麥雜穀の虫には俵口に其他類似の害虫及草木野菜の葉芽に累集する害虫には其

盛夏炎粒辛作上稻も朝虫に穫に失注せけるや
天々苦りげ一田の害を収ふ意ざん可

局所に振り掛けてよし
甲虫有羽虫にして粉末を散布し難きものは液汁を注でよし
果樹或は喬木の害虫には晴明の朝樹下に燻べし糠木屑等混合するもよし但し混合は必ず三十時間前たるべし又は除虫液として注射すべし
稻虫に用ゆるは乾燥せし花を粉にし其儘施して効あれども花は高價の者故のみども粉に賣り其二番箱又は除虫菊の莖葉を用ゆるなり尤も苗代の内一二回は花粉を撒布すべし苗に害なくして其効實に非常なる故也
但し除虫粉は自家多量に製造する時は安價に出來する故に除虫粉を其儘用ひ或は除虫液として用ふべし
凡て粉のまゝ用ゆるは其局部に撒布してよし但し綿藍野菜其他果樹類に場廣く用ゆる時は糠或は麥粉を混合し用ゆべし但し使用の時は三十時間以前混合し置くを要す又木灰を混合すれば一層妙也

年々數萬の富奪去彼稻を滅て國の敵の誅すべし
千々圓國のひをる虫の撲し我胞を仇す

燻烟して奏効せしむるは純粹除虫粉は勿論佳良なれども乾燥花のまゝ用ゆるも又甚だ簡便なり蚊蠅蚤南京虫等諸種の害虫を驅除するのみならず香氣馥郁人を悦ばし室内の使用至りて妙なり而して蚊の如き絶て室内にある事なく又蠅の如き所々に轉落し何時となく退散す(常に除虫粉使用する時は厠等に至るまで蛆虫の發生なければ予が家の如き一匹の蠅ある事なし)
除虫粉の高價にして稍や調ひ難き時は粉又は花中へ鋸挽屑又は他の燻ぶべき添物をなし燻ぶへし少量と雖も能く奏効をなす
但し燻煙用に製せしものは除虫菊の莖葉或は他物を混じ別に製造す
除虫液として使用するものは土中の害虫及草木野菜殊に稻虫の如き場廣く用ゆるもの又は飛逃するものに注射使用するものなり使用方は日出前或は日没後灌注すべし沸騰せし湯に除虫花粉を投じ器物に密閉冷却せしめたる者を注射するもよし

附

録

實地
の
案
内

其功
偉矣



也

櫻
米
題



第二回五二會全國品評會褒賞証

除虫菊及種子

和歌山縣有田郡山田原
御前喜八郎



褒狀一等

明治三十一年五月十日

審查總長正六位勳六等 平賀義美印
會頭 從三位勳四等 前田正名印
總裁從二位勳一等伯爵佐野常民印
褒賞贈與之證

附錄

一

櫻 米 題



第二回五二會全國品評會褒賞証

豊津 信 劍 泉

除虫菊及種子

和歌山縣有田郡山田原

御前喜八郎



褒 狀 一 等

第七回内閣大臣品評會

明治三十一年五月十日

審査總長正六位勳六等 平賀義美 印
會 頭 從三位勳四等 前田正名 印

總裁從二位勳一等伯爵佐野常民 印

褒賞贈與之證

附 錄

除虫劑
除虫菊

紀伊國有田郡保田村山田原
御前喜八郎

有功 壹等賞金牌

右審査成績ニ據リ之ヲ授與ス

明治三十一年九月十日

第七回内國々益品博覽會印

第一八五八號

殺虫液試驗ノ儀出願ニ付本場技師堀正太郎ヲシテ試驗施行爲致候處左記ノ通ニ有之候條參考相成度候也

明治三十一年十月十九日

(農商務省) 農事試驗場

試驗出願ノ殺虫液ヲ以テ當時本場内ノ苧麻ニ無數ニ發生シタル藕蚰蝻(其大サ小指大ノモノ)ヲ以テ其效力如何ヲ驗セシニ左表ノ如キ成績ヲ得タリ

濃 度	濃 度
二十倍液	即時ニ死ス
五十倍液	二分内外ニテ死ス
七十倍液	三分時ニシテ活氣ヲ失ヒ五分ニシテ死ス
百 倍 液	全前
百二十倍液	六分時ニシテ死ス
百四十倍液	六分時ニシテ活氣ヲ失ヒ十分ノ後死ス
百六十倍液	苦悶ノ狀アリテ少シク活氣ヲ失ヒタレモ遂ニ死セズ

備考 原液ニ對シ水二十ヲ加ヘタル者ヲ二十倍液トス又試驗ノ方法ハ昆虫ヲ捕ヒ指定ノ液中ニ輕ク其口部ヲ浸シ即時ニ引キ上ゲタリ

褒

一 除虫菊

第四回内國勸業博覽會褒狀

諏訪 鹿三 印

審査官從七位 南 鷹次郎 印

從五位 福 羽 逸人 印



狀

審査部長正四位勳三等 田中芳男 印

審査總長正三位勳二等 九鬼隆一 印

狀

審査總長ノ申告ヲ領シ茲ニ之ヲ授與ス

明治廿八年七月十一日

總裁大勳位 彰仁親玉 印

農事熱心家全國農民會員ニ謹告ス

本邦農業上ノ一大賊敵ハ害告ニ在リ故ニ政府法令ヲ以テ其驅除法ヲ干涉施行セシメ
ラレ且農商務省ニ於テハ種々其便法ヲ試験セラル然ルニ驅虫ノ簡便ナル良法ハ除虫
菊花ヲ粉末ニシテ散布又ハ煙煙スルニ如クハナシ故ニ農家舉テ除虫菊ヲ各自ニ栽培
スレバ田畑驅虫ニ費用ヲ要セス大ニ効力アルヲ以テ目下最大急務ナリトス然レ同菊
ハ近年ノ舶來ニ係リ其種子ノ善良ナルヲ得易カラザルハ農業上ノ恨事也茲ニ和歌山
縣會員御前喜八郎氏多年其栽培ニ熱心シ拾年一日ノ如ク獎勵ニ從事セラレ受タル所
ノ褒賞モ亦渺カラズ幸ニ全國無二ノ最好採種地ヲ有セラルヲ以テ本年特別吟味ノ種
子ヲ採収シ之ヲ頒テ大ニ播殖ヲ圖カラレントス全國會員諸君奮テ御申込アランコトヲ
千希万望ス

日本農民會 會頭 前田正名

幹事長 榑原 仲

主 計 小 嶋 治 一

除虫菊種子頒布ノ紹介

(前畧)茲ニ本會權講師御前喜八郎多年其栽培ニ熱心シ終始一貫已ニ八年此間實ニ一日ノ如ク獎勵シ從事セリ然レ使用ノ途益々増進スルノ割合ニハ産額之ニ伴ハズ大ニ不足ヲ感セリ依テ本年最好適地ニ於テ該種子ヲ採収シ之ヲ全國全盟員ニ頒チ普ク播殖ヲ圖ラントス農界ノ爲メ先ヲ爭フテ紀伊國有田郡山田原帝國除虫園主御前喜八郎ニ氏宛御申込アラントヲ希望ス

帝國農家一致協會

總裁賀陽宮邦憲王殿下

會頭正三位伯爵 冷泉爲紀

有田郡農會長ヨリ全國郡農會へ紹介狀

有田郡農會員御前喜八郎氏ハ夙ニ産業ニ志シ篤ク農事ノ最大急務ハ害虫驅除ニアルヲ看破シ深ク感アリ力ヲ除虫菊栽培製造ニ注グ茲ニ年アリ今ヤ稍々其緒ニ就キシテ

以テ全國ノ同志ヲ勸誘シテ相共ニ其効ヲ驗センコトヲ企圖セラル茲ニ其篤志ヲ嘉シ一言ヲ添ユ

卅二年十月廿三日

和歌山縣有田郡農會頭

正七位勳六等 野 田 四 郎

副 會 頭 大 江 城 平

各府縣郡農會員御中 外役員一同敬白

本園既に毎年諸方に分配し其結果を認めたり今左に參考用來狀五千余通ノ内ニ就テ一二ヲ録ス

(前畧)除虫菊粉苗代ニ撒布候處諸虫は勿論隨に至る迄悉く斃死致し其翌日よりは少々苗の生立見替し候感有之云云

六月廿一日

野 田 四 郎

御 前 盟 兄

右は有田郡長正七位勳六等野田四郎君より來狀也
庶第六二號

貴園御發賣ノ除虫粉浮塵子驅除劑トシテ試用ノ處其効頗ル顯著ニシテ實ニ農界適切ノ要品ト認メ候郡内害虫蔓延甚シク候爲メ本會ノ卒先シテ驅除ノ片時モ緩セニスヘカラザルヲ唱道シツ、アルニ際シ本會ヲシテ斯ル有効ナル殺虫劑ヲ社會ニ紹介シタル榮譽ヲ得セシメタル貴園ノ好意ハ本會ノ最モ感謝スル所ニ御座候郡農會其他實業團體ニ向ヒ除虫菊ノ有效ヲ紹介致置候得ハ將來本郡ヨリノ需用ハ一層増大スルコトト存候貴園ノ業務カ誠實且敏捷ニシテ當業者ニ充分ノ満足ヲ與ヘラレンコトハ本會ノ切望シテ已マザル所ニ候茲ニ本會ノ所定ニヨリ貴下ヲ會友ニ列スルニ當リ一言其好意ヲ感謝ス不宣

明治三十二年八月十七日

赤穂農談會長

長野縣々會議員 福澤 岩 夫 團

帝國除虫國主御前喜八郎殿

一 除虫菊及除虫粉

（昆虫類殺滅劑原料）

インセクトボーイダールブランド

近時除虫劑ヲ製造販賣スルモノ多シ然レ共概ネ舶來外品ニシテ儘内地ニ製造スルモノアリト雖モ種々ノ雜物ヲ混合シ或ハ正品ノミニテ製造スルモ其製法ニ注意セザルノ輩ノミナレバ充分ナル功能ヲ奏セシムルモノナシ併シ拙者ハ除虫劑ニ就テハ多年苦慮殊ニ効能ニ於テ驚クベキ奏效セシムル爲メ摘花方乾燥方香氣ノ發揚加減深ク考究發明シ其結果舶來品ノ企及シ能ハザル功能顯著ノ佳良品ヲ製出セリ是ニ原料花ヲ自家培養ノ功績トス
又苗ハ殊ニ培養宜シキヲ得強硬ナレバ之ヲ遠地ニ運ヒテ數十日ヲ經ルモ枯死セザルノミナラズ少モ傷ミナク能ク成育繁茂ス（乃チ發生成育責任ヲ保証シアルトコロナリ）而シテ種子ノ如キモ充分注意撰擇シアレハ播種一トシテ發生セザルコトナシ特

ニ製粉ニ於テハ多年専心經營の結果優效無比ノ精良品ヲ製産セリ是則今般博覽會ニ於テ特ニ褒賞ヲ下賜セラレタル所以ナリ

除虫菊ハ種子發生甚タ六ヶ敷トシテ栽培ヲ斷念スル人多シ是皆種子ノ撰擇ヲ欠キシニ因ル也インセクトハ寒暑如何ナル地ニテモ(水田濕地ヲ除キ)能ク發生繁茂スルハ予ノ保証スル所ナリ且ツ我國至ル所地味好適シアレバ必ズヒユツテロット氏ノ卓見ニ違フズ日本ノ一大物産トナル前途好望ノ事業ト云フベシ役ノ花莖段通麥稈真田ノ如キモ創業ノ當時ヲ追想セヨ誰カ今日ノ盛況ヲ豫想セン除虫菊業合ヤニツ葉ノ幼稚ニ在リト雖モ己ニ枅檀ノ香ヲ有ス將來本業ノ大成期シテ待ツベシ

害虫驅除法研究會長

御前嘉八郎識 ㊦

帝國除虫園主

帝國除虫園主 嘉八郎

大日本農會 會員 伊名親王末孫

全國農事大會中央本部調査委員 紀州有田郡山田原

京攝實業大會農業部長 除虫菊創植者 御前喜八郎

和歌山縣農會議員

帝國農家一致協會講師

除虫菊効能に就て

除虫菊粉所謂純良のみどり粉の無血虫類殺滅に驚くべき奇効あるは漸く世人の認むる處なるが其効能を只一部の蚤虱類に限りし如く思ひ未だあらゆる動植物害虫驅除に多く使用せられざるは實に遺憾の至りなり是は除虫菊粉の俗にのみどり粉と稱せられて只一の殺蚤劑と誤想せらるゝと且近時の植物なれば未だ充分實驗をなせし人の少なきが故なるべし除虫粉の効能を諸種の虫類に試験する時は其研究を重ねるに随ひますく奇効を有する靈草なる事を確認し得らるべし蠅蚊の如きは燻煙して驅

除し得べし（撒布器にて撒布するもよし）植物害虫には注液撒粉して殺滅せしめ得べく而して蛙蟻蛇蜈の強性のものも亦充分殺滅せしめ得べし（蛇の如き体上に粉の附着し難きものにはクリスリン又は少許の水を注ぎ撒布すべし虫蟹の如きは暫時にして泡沫を吐出し全く歩行し能はざるに至るべく稍多量を用ふる時は其手足節々離落するに至る殊に最も驚くべきは水族虫魚類をも殺滅し得べし例令へば鯉鮒の如き各別桶に放し少量を加へ試むべし鰻鮪の如きも暫時にして殺滅す此の他名目の知られざる水族諸種の虫類に試みしに何れも能く奏効せり

使用方は注液燻煙撒粉等多少用法異なれ共要は（毒氣の虫体の小孔より吸入せらるゝものなれば）只虫体に粉末を附着せしむるにあり幸に實驗ありて猶諸種の害虫殺滅に有効なる研究をなし大に我農界に益せられん事を望む

但し虫性と用法により即時奏効せず數時間又は數日の後死滅するものもあれば靈草の奇効を埋没することなかれ

茲に公報第三號に所謂一種の職業を得たる事實は大阪貯金管理所に於て證明せらるべし即ち本園使用の工女及農夫中國主の獎勵に依り箕嶋郵便電信局に毎月一圓の貯金を爲す者今現に八十二名なり

有功証明

除虫菊の有効なるは今や我國至る處隠れなきに至り而して其功的面に顯著なれば日ならず支那朝鮮地方に大に販路を開かんとす乃ち我國にありては目下蚤虱蚊南京虫米麥虫其他鳥獸杯の毛虱草木に發生する害虫油虫類に用て未だ歐州及米國の如き有らゆる作物に用ゆるに至すと雖も往々實驗の上夥多の需用を來すや明かなるべし（弊園の如き本年已でに福也洋行の手により試みたり）支那及び朝鮮地方は所謂世界の芥溜場とも云ぬ可き場圃柄丈け種々雑多の害混虫類數多なれば其販路實に計る可からずとは去年五月販賣店朝鮮國元山津上野商店よりの通信により明なり然るに燈臺下暗しの鄙語今猶除虫菊の效能並に今後有望なるや否やを照會し來る輩甚だ多し

如何にも辻遠の至りと云ふべし乍併此の除虫菊は本園こそ數年來培養しあれども當初にありては未だ他に一人も培養者あらざるのみならず本園も他に種苗の傳播を客みたれば隨て效能は勿論其植物の性質すら知らざる又無理ならぬと云ふ可し然れども今や全國諸新聞諸雜誌舉て此の奇植物の記事を掲載せざるものなきに至りたれば普く效能知れ渡り併せて有利有望の植物なると知得せしなる可し今茲に二三新聞の略評を記せば精確警敏なる世界有數の大新聞大阪朝日は廿七年三月三日の紙上に於て左の斬新奇拔なる報道を爲し大に實業界を驚動し全國新聞社間に轉載材料を與へたり(前畧)

近來發賣する蚤取粉は有害虫類を驅除撲滅する唯一の藥料なるが其原料は一種の菊花原と歐州の産なるが我邦の地味に適し之を培養せば莫大の収益を得る容易なり其供給は需用を充す能はず隨て其種苗を得ず事容易ならず苗一本貳錢五厘種一合貳圓五拾錢の價值に上れり和歌山縣有田郡保田村大字山田原の御前氏は昨年二十金を投じて其苗を培養せしに壹反歩金參百五拾圓にて買入を望む人あれども同氏は賣らず云云

同地發行の浪花新聞六百拾壹號に除虫菊に就てと題し

除虫菊の事に就ては既に全國幾百の各種新聞雜誌に記載し本紙上に於ても報道し置しが今和歌山縣御前喜八郎氏の培養せる一斑を示さん(中略)左れば各府縣より右御前氏に向ひ種子の分配を乞ふ者夥しきに付一々其請求に應ずる能はず結局各郡に人員を限るに決したる由なるが一反歩植付の純益は百圓以上に出で風旱水の憂なく如何なる瘠地にても生育する者なるが此菊の使用を廣めたらんには農家の最も恐るゝ彼の稻虫の害の如きも驅除する事容易なり云云

山陰新聞二千五百六十一號記事の要點に曰く

除虫菊は(中略)好藥艸なるが年々獨逸商の手を経て輸入する蚤取粉も之を材料とする者にて其高頗る多額に上れるが我國幸に培養に適せるを以て政府百方周旋す

る所あり遂に其種子を得之を紀伊國有田郡帝國除虫園に栽培せしめしに頗る好結果を得今廿七年には六萬袋を産し廿八年には十萬袋に上る見込なり斯くて漸次輸入品を杜絶し遂に支那朝鮮に輸出せんとす同園主御前喜八郎氏は全國各郡に人員を限り之を頒つに決せり(中略)一反歩に二百圓以上を得べし此益は米作の如く災害を知らず年々一定減するなく春秋に種蒔植付の煩なく一度植たる儘にて益々收穫を加へ而も作地を擇まず格別肥料を要せず荒無の原野をして一萬圓の財産に均き所得を産出せしむ之を澤山に培養して稻虫驅除に使用せば我邦最も恐れ戒心すべき稻虫の害に依て饑饉に陥る患なく其益實に量るべからず云云又松江日報二千四百廿六號に左の報あり

●除虫菊鴻益 除虫菊は十七年の頃歐洲より輸入したる一種の菊にして我國にて始めて之を栽培したる者は紀伊國有田郡帝國除虫園にして能く我が地味に適し且つ繁殖力強大にして畑地の肥瘠を擇はず其の製法も簡單にして花を乾かし之れを細末と

すれば上等の蟲除粉を製し外國品に優る數等なりと且つ其の莖葉を搗きて稻田作物の害虫を驅除するを得るを以て年々其の價を高の今や韓清に向ひ日本輸出品の一に數へられんとするの勢なれば地方農家の副業として山嶺等の荒地に栽培するも尙一反歩に百圓金の純益を收むるを得と云ふ

其他該植物の益を揚げ本園の事業を賛成せられたる新聞雜誌の數は限りなしと雖も其二三を例せば左の如し

大日本農會報百七十號東京朝日新聞三千四百四十四號東京新聞六百九十四號都新聞三千四百十三號九州新聞二千六百五十二號佐賀自由四千六十號

特に帝國農家一致協會刊行の農談には質問の内急要の件に限り農學及實地に秀でたる名譽員の答案を需め即答欄に掲ぐる者なるが廿八年十一月全會の需めに因て除菊虫の栽培法を答へ第八十號に於て發せられたり全第八十一號及第八十三號第百八號參觀

前田正名君の産業社刊行中央農事報第一號及産業第十八號
 東京興農雜誌第十四號及日本農事協會農報第一號岡山日々商況四千五百五十一號
 日本農民會刊行農民第六十六號實驗農談部全第八十九號松江日報二千四百廿六號
 東京農業雜誌五百七十三號五百九十九號六百十八號岐阜每日新聞二百五十九號
 東京農事新報六十七號日本農業新誌二疊新聞皇道東京二六新報時事新報名古屋扶桑
 新聞因伯時報岐阜日日新聞鹿兒島新聞岩手公報中國日報東北新聞鎮西日報防長新聞
 米子毎日新聞宮崎新報淡海民報山陽日報靜岡民友新聞三重新聞帝國農民協會農海和
 歌山新報和歌山商況新聞艸業雜誌島根縣師範學校校友會雜誌煙草雜誌及いばらき等
 明治廿九年六月に到り本園の事業は遂に二條公前田君の創立せる大日本實業學會の
 講議錄に上るに到れり其他左の諸新聞も大に稱賛せられたり
 東京朝日新聞三千四百四十四號東京新聞六百九十四號都新聞三千四百十三號昆虫雜
 誌第十號東京興農雜誌第十四號日本農事協會農報第一號岐阜日日四千五百五十七號

鹿兒島新聞四千五百五十二號岩手公報第千八百四十號二條公爵前田君創立大日本實業
 學會講義錄日本農民第六十六號等は特に詳細説明せり中國日報八百九十二號福島民
 報九百二十九號東北新聞千三百廿六號東京農業雜誌五百九十九號
 昆虫研究所長名和靖氏談話の一節を左に録す (前略)
 學者が澤山居つて研究して驅除豫防した後は是れです所て日本ではどうであるかと申
 すと日本の農産物の收穫も本當に解りませぬが農商務省で統計表杯を作つた夫等を
 見まするとマアぜんなんにしても四億圓よりは減ることはないと思ひます日本には
 昆虫學者が幾人ござりまするか如何なる調を致しましたか驅除豫防法は行れますか夫
 は殆どないのです虫の喰ひ次第に任してあると云ふ様で若しも亞米利加の蟲に聞い
 て見たら何と云か「已れの方の亞米利加では學者が來て已れ等の性質を調べよつて
 折々仲間を色々の器械や藥を以て殺してどうも子孫を繁殖させるに餘程困難で亞米
 利加は暮し悪い併し日本は善い國である桑も稻も澤山作つて呉れつてもツイに追ひ

に來たこともないどころも日本は善い國だ日本の蟲は嚙ぞ愉快だらう最早三十三年には内地雜居を許すさうだが已れも行きたいものだ」(大笑)と云ふて、亞米利加の蟲が楽しんで居るであらう虫の内地雜居杯は私は大反對で亞米利加の虫の輸入杯は御斷を致して日本の害虫を是から大に意地目でやらなければならぬ云云

又日本婦人會雜誌に學士中村俊郎君特に人体と蚤蚊の關係を説明し即ち説をなして(長文なれば就中有益の二三抜萃畧記す)凡そ人体に害毒を加へ殊に吾人に親炙して煩悶を興ふるは蚤蚊に若くものなし一個の小動物なれば之を打し之を搦する何かあらん然れども隨て搦打すれば從て襲來し其盡るを知らず(中略)又勞働の苦を一浴の後に忘れんとすれば蚊軍呐喊群襲し帳中に入れば忽ち蚤の侵襲に逢ひ終夜安らかに眠る能はざるは實に精神と人体を疲勞せしむるの大なることを述べ而して蚤蚊の睡眠を防ぐる結果はランケ氏の所謂疫勞物なるもの体中に鬱滯して精神を害し終に違和罷倦頭痛を起し腦神經衰弱症又は脚氣症を誘發し知覺力を滅殺する等諸種の疾病を

醸すに至る蚤蚊の害は世人の多く知らざる人体に大なる害をなすことを述べ到底此の恐る可き害虫を驅除せざる可からざることを以てし大に其驅除方法を苦惱せしに計らざりし實に顯著なる除虫奇植物の膝下にあるとを發見せしとは云云又全氏は孟買新聞の記事を抜萃してリナチユ植物は除虫劑として頗る有効なり埃及國にては月毎に之を植て其害虫の來襲を防ぐ都會の地には植木鉢に其苗を植て除虫の便利とす併し其葉の十二計りを蚊の群襲せる室内に置けば悉く消散するも死跡を止るとなり云云

此他詳細なる有効証明和歌山日日新聞を始め第六十三號米子毎日六十九號淡海民報三百三十號北國六百一十一號新浪花千七百八十二號大和千八百五十號宮崎二千四百三十三號扶桑二千四百七十八號金城二千五百六十一號山陰三千八百廿五號岐阜四千八百四十五號五千五百五十六號鎮西百三十四號大阪實業二千九百九十四號東奧千三百三十三號因伯千九百八十一八十二號松江千百廿七號濃飛千三百九十八號東北日報千四百三十六號東北新聞十六號仙臺三千百二號茨木千四百八十八號信濃二千二百九十二

號大和二千七百四十八號三千四百六十六號三千六百十二號防長千三百號全一號中國
 千九百四十號巖手二千七百五十五號北海二千六百二十七號三千七百六十八號佐賀二
 千二百十九二十號九州千四百七十六號靜岡二千六十六號三重九百十八號狹貫二千三
 百六十六號香川二千百三十三號近江千三百六十五號岡山中國大阪朝日全每日東京二
 六伊勢海南福島民報福岡日々七十五號東京家禽七十號神戸藥業京都商業醫事新誌煙
 草雜誌草藥雜誌農事新報島根縣師範學校學友會雜誌等枚舉に遑わらず何れも噴々有
 利有望其奇植物なることひやうらん評論し併せて特に贊評を寄せらる實に本園の名譽とする處
 なりしかのり加之ならず已に大學醫學部に於て試験せられ則ちいさひ有益にして有益奇植物なること
 確知せらる可し

又昆虫雜誌第十號雜報中の記事に左の如くあり

●除虫菊栽培に就て

外國植物中本邦の氣候に適し其効益最も多きものは除虫菊にて其栽培極めて簡易に

して其利益甚だ多く最も望むる植物なりと元來除虫菊は毎年豊産にして風雨旱暑に
 冒されず最も強盛なる植物にして適地は山林又は荒地瘠地と雖ども植付て收穫を得
 ざるはなく該植物は野生に近きが故に栽培容易にして初夏未だ諸作物の實のらざる
 に既に收穫するを以て農業諸作物中に於て最も一大有益なる植物なり而して除虫菊
 には數種の類あると雖ども田畑に生ずる害虫を驅殺するには紅白色の花種を最良と
 す又該除虫菊を栽培して年々五六月頃に開花する花を摘み取り粉末となし以て稱田
 及畑の植物に撒布すれば如何なる害虫も驅殺すること奇妙なり如斯著効ある除虫菊
 を全國の農業界中に普及せば害虫の患ひは雲霧を拂ひたる如く其の益實に計るべか
 らざるものなり最も從來世間普通の驅虫劑は何れも皆多少の有毒性を含有すれども
 此の除虫菊に至りては然らず假令吾人の體內に入ると雖も少毫の害あるとなく之を
 昆虫の驅殺に用ふれば毒性を顯し如何なる害虫にても數分時間ならずして忽ち斃る
 實に農家の一日も欠くべからざる貴重の植物なり尙又人肺及家畜の蚤虱其の他床虫

の如きは立ちどころに塵にして其の跡を斷つべし近年は彼の獨逸商人が毎年我邦へ輸入する所ののみどり粉は即ち此の除虫菊を原料とし製劑せしものにして外國商人は頗る高價を以て之を我内地に賣弘め多額の利益を收得せり而して其輸入の製劑を見るに既に年月を経過して大半効力を失する物なるが上に其の價も廉ならざる大に考ふべきものなり依て我全國の農業界に此の除虫菊を栽培して自から粉劑を製造し田畑の害虫に用ふれば其の利益は言を待たず毎年外國より輸入する品をも防止し進んでは國産として貿易品となし以て海外に輸出するに至らば其の國益たる勿論なり而して此のものを産出するはベルシヤ及ダルマシヤ北米カリホルニヤ等に於て最も盛んに培養せらるゝものにして現にダルマシヤの如きは小國なれども之を栽培して年百數萬圓の利益を歲入せると云ふ又大阪に於て發行の藥石新報四百六十五號に左の如く報道せり

○紀州御前氏の除虫菊 紀伊國有田郡山田原の名望家御前喜八郎氏（過般衆議院議

員の総選舉に際し候補者として推薦せられしも辭退せし人は去る明治廿七年卒先して除虫菊の栽培を試み現時同品輸入杜絶の端緒を開きたる人なるが目下同氏一手にて一ヶ年産額數万磅に達せるのみならず除虫菊の種苗をも全國到る所に配布しつゝある由氏の工場栽培所等は云ふ迄もなく頗る廣大にして當業者一覽の價植あり云云

インセクトの凡べての混虫類殺滅に驚くべき有効なるは已に一般の確信するところなり試みに如何なる虫にても花粕又は粉の袋中へ入れ置くべし弱きは數分間如何程強くとも一時間内外に殺滅す又稻虫類を殺滅する除虫液の功能あるは前田正名君の贊評により明かなり而して四億萬の支那人を苦しめ猶近時本邦にて逐次蔓延都府市内は勿論兵衛軍艦貴顯紳士の邸内等に至る迄迷惑を蒙ひらす彼の南京虫にも効あり

明治廿八年 八月六日附大坂府堀川監獄署
より有効乃御証明を受く又家禽害虫に有効として本年三月

十日附尾州中島野田飼禽場より証明を送付せらるる乃ち如何なる虫にても有効なる事
推して知るべし

明治廿九年七月廿四日 錦鶏間祇候正四位
勳二等 大日本水産會幹事長 田中芳男公本
園と御縦覽あらせらる

明治三十一年九月大坂府立農學校教諭農學士河上謙三郎氏は全校生徒二十三名を引率來園實修せられたり

明治三十年一月五日奈良縣廳内務部第五課屬井上隆氏來園

同三十年二月農商務技師山下傳吉氏來園地質を調査せられ全三十三年十月農商務省技師小貫信太郎氏は石桁屬丹羽書記を隨へて來園せられ除虫菊栽培上乾燥方收益等を尋ね且つ實物持飯られ爾后毎年除虫粉の御用達を命せられたり

本園の事業は明治廿七年三月大坂朝日新聞四千五百廿四號の記事に依て世に發表せらる、迄は實に自ら推舉せざりしなり然るに同年は有田郡長正七位野田四郎氏の來

園實況視察ありしは郡長が旅行先にて毎に同僚其他の間合せ有に因れり其後大坂府立農學校の深井甲吉郎氏外三名は特に除虫菊の栽培を研究の目的を以て修學旅行を試み和歌山縣の添書を以て來園せられたり氏等は論文の材料とする也其他奈良縣を屬官派遣せられ貴族院議員錦鶏間祇候田中芳男君も來られたり其他大坂重松氏は三回愛媛松本氏奈良縣は廣瀬松本奥田中島植田諸氏兵庫縣は池田氏岐阜縣は高木氏滋賀縣は某氏京都府は山上中西樋口三氏大分縣は大塚氏長崎縣は堀池氏福井縣は田中内田兒王諸氏徳島縣は松岡氏北海道は小村氏山口縣は田中立石諸氏等を始め何れも親しく來臨の上實地に就て栽培法を研究し并に農場及び製粉工場を觀覽の上大に感賞せられ特に莫大の注文せられたり右等來園の人當村山嶺の開墾景況を一覽し一驚を吃せざるなし目下開墾中の場所の如き既に山の絶頂に達し一々石垣を築き宛も城を築くが如くせざるを得ず一坪の石垣を積で一坪の畑地を得ざる所なり其險阻なる事確なる事意思の外に在り然るに猶且一反歩百五十圓以上の開墾費を惜まざる

本園箱購入高ケ一五年千函以上也

んぞ天狗の棲家の如きをも之を菊畑となすは當地に於ては他に空地なく既成の畑は一反歩六百圓以上にてても賣手なきを以て止むを得ず菊植の爲め新開を要すればなり又斯の如き費用を擲つも除虫菊の収益を以てすれば一年を要せずして地代を償ふて餘りあればなり此の如く収益の多額なる植物は從來他に見ざる所なるを以て本園に於ても勉めて其有利を説き奨励の勞を辞せざるを以て廿七年來各府縣より種苗請求の人多く毎日返信に忙しく爲に郵便の配達度數を増せしめ一日發信着信の數卅余通を下る日なく多きは五十通に上る日あり爲めに一函を設くるに及へり本園に於ては帳簿三冊を備へ府縣別を以て注文受付品物發送代金領收を記入し荷作人足五人を常置し居れり書狀の數積んで長持に充ち好結果の謝狀其半を占む栽培書及解説書狀袋藥袋等を印刷する事廿二三回に及べり而して今や本園五町余の田畑に之を滿栽するも需用に應ずるに足らざるを以て進で地所を他村に購入し登記の件數拾回に及べり其地は海草郡椒村保田宮崎宮原田須川山地畑村吉村諸村に互り何も東西南北に分

兵縣業のに明三一本數冊り
庫勸會需應て治十年月書十送せ

れ多少距離あり不便少なからずと雖も亦止むを得ざればなり而して遂に美作國勝北郡に支園一町五反歩を設けたり此如く數年の常業とし之を以て専門事業とし將さに先祖傳來の本業たる本場密柑の培養をも第二段に置き全力を除虫菊に注げるを以て其間の經營辛苦は經驗となり熟練となり苗仕方荷造り方運送方粉製造方等に於ては獨得の長所とする所到底他の企及すへからざる点多しと自信せり箕島郵便電信局に於ける小包の取扱は本園の發送品其大半否殆ど大部分を占るに到れり而して大數の荷物は大阪廻漕店より毎日諸方へ轉送す

大根其他農作物害虫には高價なる花粉を施用せずとも副産物たる葉莖を細かに切り碎き用ゆべし

蚊やり香は粉粕に莖葉を碎きて混じ之を煉りて線香とし或は袋に詰め發賣するなり從來は硫黄を用ゆれども除虫菊一層妙なり

右粉末を來年迄保存するにはブリキ罐又は陶器の壺に收め密封し置けば香氣散する

他にも如きヤル種
有る如きヤル種
赤花の種
除虫菊
苗は額
穫下半額
以故に
り大に
直段に
差あり

第二回
全國一等
賞状

事なし貯藏粉は使用の際少しく紙の上にて火鉢の火に炮すべし
又製粉には種々の粉を混じ其量を増す法種々あり小麥の粉又はアルコール グリン
アンモニア石鹼雨水等混合する事あれども此等の悪手段を施すよりは夫れだけ花を
多く作り可成純粹無雜の優良品を製するに加かざるなり
畢竟花の産額不足の爲め止むを得ず混合するは窮策に過ぎざる故花の産額を多くし
純粹品を製出すれば一層のみどり粉の使用増し来るものなり已に當地方にては
一戸平均毎年拾錢以上二十錢位使用の割合に進み日々小賣人巡廻して相當の賣上口
錢を得るに到れり之を以て産額増して價值騰貴するなり
明治廿八九年の當地干花及生花相場と明治三十年の相場に比較すれば後年の方二倍
以上に騰貴せり三十五年は一層騰貴して一貫目六圓五十錢に上れり
のみどり粉は賣薬部外藥劑免許規則に依り各地方廳にて免狀を受け發賣するを得て
部外なるを以て印紙貼用に及ず故に他の雜貨商品と同じく販賣自由なり

第七回國內益々博覽會有功一等賞金牌

又容器は中包を寒冷紗とし其儘包の内よりふり出す法もあり
袋は西洋紙にて煙草の袋を製する家へ調へば一袋四毛位即ち百袋四錢内外にて印刷
調製するを得べし
又自家にて發賣するの手續を厭ふ人は乾花其儘商人に賣渡し又は本園へ買取方を申
越すべし本園に於ては常に諸方の注文及び年々の條約店へ送るの品を要し又年額幾
千貫の條約に對し自園培養の分にて不足を感ずるを以て毎年幾千貫を賣買す
又製粉を量目にて賣渡すに即ち獨逸製品の如きは一ポンド壹圓以上壹圓廿錢位にて
輸入すれども尙本邦製には其効力劣るもの故に我國製は一ポンド壹圓以内にては大
に安價なれば充分舶來品を壓倒し得るなり
袋入は一袋正味四分より五ふんまで入れ定價壹錢五厘二錢位なり小賣人の口錢は其
内四割位とすべし
右の賣捌の手順なるが將來は輸入品を杜絶し我内國の人も漸次其有効を實驗しての

第一回柑橘品評會壹等賞受領

みどり粉の信用を認むるに到らば全國の人口四千五百万と假定し一人毎年五錢を使
用するの習慣となれば二百余万圓の産額は内國にて消費すべし況や進で米國歐州に
輸出し彼邦の市場に於てダルマシヤのインセクトを驅逐し我産品を以て之に代ゆる
事至難の業に非ず是に至て需用の程度は實に算測に苦む所なり支那四億万の人民も
將來の好得意ならん

眞成苗種購入案内(全國卸賣根元たる帝國除)除虫菊苗は撰擇法に依り大に優劣を生
ずる者なれば本園に於ては數百萬の苗を仕立て其内の優良苗を遠國送りとし劣等の
苗は悉皆村内の仲次商に讓渡し本園は責任負擔の爲め一層良品而已に改定す其代價
別紙の如し(メルシヤ種は收穫此種の半額以下なり)

種子之部(眞成最良ダルマシヤ種反獲始と二百圓に上る分)

種子の撰擇は特に注意を要する肝要なるを以て本園は多年の實驗に依り數等に區分
し各々品質を一定し彼の腐敗種子不熟種子及びミナセ等にて到底發生の見込なき品
は非常の安價を以て其々下等物賣捌所へ悉皆相渡し以て本園の信用を永久に維持す
るの持重策を執る併せて除虫菊試作者の成功を保護し一敗復た栽培の希望を遺憾の
裡に放棄するの不幸なからしめ本園は専ら第二次より第三次一回多額の注文を受
くるの光榮を荷い以て除虫菊の眞味を世に知らしめんとす幸にして此方針は大に適
中し一たび好結果を得たる人は前後數回の注文は一回一回多額となり茲に一大常業と
なるに到れり此の遠大の畫策は聊か予が自ら以て卓見なりと信する所にして世の輕
浮にして定見なき者とは妙しく其撰を異にする所なり

世間芥交々又は甚しきは乾花の内にて少しく老たるを種子と稱し無責任の賣買あり
と雖も一升百二拾目以下の品は本園に於ては種子として發賣せず種子袋入は左の如
し(メルシヤ種は收穫此の半額に上らず故に種子も安價なり)

ダルマシヤ種 袋入一粒拔 大袋 二圓 中袋 壹圓 小袋 六拾錢
試驗用種子 一袋 五十錢 ベルシヤ種赤色花 一袋 五錢
又種子に限り代金引替小包郵便を以て發送の求めに應ず該種注文者は御便宜の小包

眞價
ク
ト
ブ
イ
ン
セ
マ
シ
ヤ
ハ
ダ
ル
マ
シ
ヤ
種
優
等
種
定
最
良
本
場
撰

大分縣下毛郡農會御用達

責人の契約は一切之を結ばず
大日本農會及帝國農家一致協會日本農民會には加盟入會の紹介を爲すへし
第五回内國勸業大博覽會に於て除虫粉及柑橘苗並に除虫菊を出品して賞典を受領せり又柑橘品評會第一回に於て一等賞受領せり
東京興農園名古屋農産館益農商會等へは種子を卸せり
米國シヤトル府商業會議所の需めに依り大阪商業會議所の紹介を以て明治二十九年除虫菊花見本を輸送せり(大阪毎日新聞に此事記載ありたり)
帝國除虫園種苗用地は全國無比の好地質にして産額亦多し故に全國農園に於て販賣の種子を仕込むに當り實地に就て契約の方は悉く東原新畑を望まざる他に於ては此の如き好地なければなり
種苗及製粉干花入用の方往々現品有無問合有之右は入念に及ばず本園は何時注文せらるゝも決して送品に差支ゆる事なし御安心直様注文せらるべし

静岡県周知郡農會御用達

本園の事業盛大なるに驚き諸有志の發起にて明治廿九年頃日本除虫菊合資會社を組織し一時其取扱高も數千貫に上りたれども營業の方針確實ならざるを以て萎縮衰微し今日にては只其名残りを留むる而已に過ぎず其他の營業者も數多有之と雖も資力と信用と勤勉と誠實と敏捷と正確と慈仁と遠大と勢力と位置皆本園の百分一に足らず優勝劣敗自然淘汰に依り皆閉口せり
本園附屬育種場從來所有の五町歩以外の田畑にて新たに購入増加せし種苗用地は左の如し(直轄地は此外とす字法花寺谷東原飯盛垣内溝向佃等)
海草郡椒里村七箇所 有田郡宮原村二ヶ所 岡山縣勝田郡一町五反歩
本園附屬製粉工場ハ本宅ノ東所有畑地二百二十番三反三畝十七歩ヲ割裂シテ明治三十一年ノ竣工ニシテ第二製粉工場ハ園ノ東北ニ起シ敷地ハ二百十坪ニシテ明治三十五年竣工シ全六年竣工セリ第一第二ノ間距離二百余間ナリ
右ノ如ク本園ハ附屬製粉工場ヲ専有スルヲ以テ他同業者ノ如ク他へ製粉ヲ托セザル

福岡縣京都郡農會御用達

附 録

三十八

ナ以テ製粉場ニ於テ他品ヲ混入セラル、等ノ虞ナキヲ以テ純粹良品ナル事ヲ保証シ
テ諸君ニ差上ル事ヲ得ルナリ是又他ノ企及スベカラザル特点ナリトス

登 録

京都本山西龍華立本寺殿御用達

日本

和歌山縣

有田郡山田原 無任
二百十九番地 責任

帝國除蟲園

栽 主

インセクト専門家

御前喜八郎

商 標

登録商號 「御前」

電信略號 ミサキ

全國取次特約者貳百余名中壹ケ年百貫以上を販賣する者は夏期一ヶ月の純益百四五
十圓に及び地方商業の内利益の最も大なる者なり今日資産を興す志ある方此業を御
營みあれ

本園は各地方の便利を計り特約店を増設す希望の方至急御申込あれ一郡一名許す
尙各府縣共續々設置の筈に付確定次第其人名を次回出版書中へ記名報告可仕候
本園産權賣捌特約店は日本全國の大都會には基布せり其内の概畧左の如し

東京之部 (本園産權販賣約店)

西村 小市	萬屋松五郎	鶴岡辰五郎	林屋勘平
小山半五郎	結城屋重右衛門	朝川伊助	三川屋卯三郎
村川惣右衛門	秋元善次郎	岡田久兵衛	瀬戸彦八
山田 さん	新井嘉兵衛	中西友太郎	澳 元 吉
三雲清三郎	中嶋忠兵衛	外拾余店	
横濱ノ部			
堀田忠次郎	白井八郎兵衛	外 數 名	
名古屋ノ部			
堀部勝四郎	美濃屋文四郎	佐藤義兵衛	近藤徳右衛門外數名
京都ノ部			
米田市右衛門	大竹外數名	内國農産株式會社等	

本園産權
橋内命
ニ依リ
大本營
大上
シテ大
元帥陸
下ノ御
上ノ御
辱フセ

附 録

三十九

三林與兵衛 外敷店 其他大阪 廣嶋 浦賀 北海道 新瀉等ノ諸店名ハ
 茲ニ畧セリ

三林與兵衛 外敷店 其他大阪 廣嶋 浦賀 北海道 新瀉等ノ諸店名ハ
 茲ニ畧セリ

陳 氏

伏見ノ部
 三林與兵衛 外敷店 其他大阪 廣嶋 浦賀 北海道 新瀉等ノ諸店名ハ
 茲ニ畧セリ

陳 建 武

利政
為法心也 井上園了

本場蜜柑栽培法

沿革

紀州蜜柑ノ濫觴ヲ尋ルニ今ヲ去ル凡ソ一千八百卅余年前人皇第十二代景行天皇即位元年田道間守常世國ヨリ其種ヲ得テ此國ニ創植シタリトモ又永享年中有田郡神田ノ峯ニ蜜柑一株自然ニ生シ文正年中種ヲ山田原ニ植ヘ大永年中ニ接木シテ之ヲ近郷ニ移シ漸次各地ニ蕃殖セリトモ云フ然レ稍々記録ノ微スベキハ正親町天皇ノ御宇(天正二年トモ云フ)有田郡糸我莊中番村ノ伊藤孫右工門肥后國八代ヨリ其苗ヲ齎セルナリ爾來風在ノ適當ナル其果實豊大美味ナルヲ以テ大坂京都伏見ニ送リテ好評ヲ博シ寛永十一年ヨリ江戸ニ輸送シタニ貴賤擧テ之ヲ賞愛致シ徳川頼宣ノ此國ニ入ルヤ大ニ之ヲ保護シテ其發達ヲ獎勵セリ方今有田一郡ニ於ル柑橘園ハ約壹千五百余町歩ニシテ明治三十四年英島港ヨリ東京名古屋兩地ヘ九十一万六千余函ヲ輸送セリ其他各地ヘ約五十万圓ヲ送リ又本縣内卅五年度收穫高ハ大約三百六十餘万貫ナリト云フ

利成

本場蜜柑栽培法

沿革

紀州蜜柑ノ濫觴ヲ尋ルニ今ヲ去ル凡ソ一千八百卅余年前人皇第十二代景行天皇即位元年田道間守常世國ヨリ其種ヲ得テ此國ニ創植シタリトモ又永享年中有田郡神田ノ峯ニ蜜柑一株自然ニ生シ文正年中種ヲ山田原ニ植ヘ大永年中ニ接木シテ之ヲ近郷ニ移シ漸次各地ニ蕃殖セリトモ云フ然レ稍々記録ノ微スベキハ正親町天皇ノ御宇(天正二年トモ云フ)有田郡糸我莊中番村ノ伊藤孫右工門肥后國八代ヨリ其苗ヲ齎セルナリ爾來風在ノ適當ナル其果實豊大美味ナルヲ以テ大坂京都伏見ニ送リテ好評ヲ博シ寛永十一年ヨリ江戸ニ輸送シタニ貴賤舉テ之ヲ賞愛致シ徳川頼宣ノ此國ニ入ルヤ大ニ之ヲ保護シテ其發達ヲ獎勵セリ方今有田一郡ニ於ル柑橘園ハ約壹千五百余町歩ニシテ明治三十四年箕島港ヨリ東京名古屋兩地ヘ九十一万六千余函ヲ輸送セリ其他各地ヘ約五十万圓ヲ送リ又本縣内卅五年度收穫高ハ大約三百六十餘万貫ナリト云フ

二 開墾ノ方法

柑橘ノ植付後發達ノ如何ハ主トシテ開墾ノ方法其當チ得ルト否トニ在リ有田郡ニ於ル山腹ヲ開墾セル實況ヲ觀ル者一驚ヲ吃セザルナキハ下記ノ如キ方法ニ在リ開墾ノ方法ハ嶮岨ナル山林ヲ深ク掘リ起シテ一々石垣ヲ築キテ階段ヲ作り其表土ヲ平坦ニス斯ノ如ク層々相重ナリテ數十段ヲ作り山嶺ニ達ス故ニ石ト土ト兩ツナガテ備ワルノ地ナレバ殆ンド他地方人士ノ想像外ナル嶮峻ノ阪ヲモ開墾セリスノ如キハ自然ニ樹根ノ深入ヲ助クベク床土ヲ少クモ五六尺掘リ返スヲ以テ成長宜シキナリ

三 風土

氣候溫暖ニシテ霜雪共ニ稀レナリ地味乾燥ナル山腹ノ類ヲ最適當トス南面ノ地ニ限ラズ東面又ハ西面ニテモ宜シ唯北面ノ地ハ少シク劣ル故ニ有田郡ニ於テ河北ハ河南ニ優ル數等ナリ

土質ハ小石交リノ綠岩土最モ多シ赤土モ亦之ニ次グ粘リ強キ土飯合ハ瓦又ハ煉瓦ヲ

製スル如キ土ハ宜シカラズ然ル余リ輕鬆ニシテ灰ノ如キ土モ宜シカラズ只少シク土ニ力ノアル天然樹木繁茂スル地ヲ撰ムベシ

種類ニ依リ適土ヲ異ニス温州柑ハ最モ山嶺乾燥ノ礫質ナル地ヲ好ミ本密柑及チーブルヲレンヲ八代ノ類ハ中段乾濕中和ノ地ヲ好シ夏橙ハ平地ニシテ土深キ肥沃ノ地ニ適ス

四 植付法

植付ケハ三月四月五月若シハ九月十月等春秋二季ヲ可トス就中三四月頃最モ宜シ菓ハ豫メ他ノ圃場ニ假植シアルヲ土塊其儘ニ根株ニ附着セシメテ離レザル様藁又ハ繩ヲ以テ土塊ヲ縛リテ之ヲ荷ヒ運ブ俗ニ之ヲ「鏡付キ」ト稱ス其掘リ方ハ株ノ周圍ニ尺ノ外ヲ掘リ廻シ漸次ニ土塊ヲ縮小シテ凡ソ苗ノ大小ニ應シ一抱位ノ者トナシ宛モ植木ノ如クス

植付ケノ際ハ苗ノ接穂部ガ少シク表土ヨリ抽出スル程ノ程度ニ填メ株ノ位置ハ少シ

ク隆起スルガ如クスベシ概シテ深植ヲ忌ム而シテ周圍ノ土ヲ押ヘ付ケ風呂水ノ類ヲ施スベシ別ニ鯨粕ノ類ヲ粉ニ碎キテ株ノ周圍ニ填ムルヲ要ス

株數ハ砧木ノ種類ニ依テ同ジカラズ枳殼臺ノ接苗ハ一反歩ニ百三四十本ヲ植スト雖ト柚ノ砧木ナレバ一反歩七八十本ニテ足レリ是レ樹木ノ生長枳殼砧木ノ苗ヨリ大ニシテ且ツ年數久シキニ堪ユレバナリ配置ハ必シモ論ズル所ニ非ス

五 年中培養行事

一月 風當リノ強キ部分ニ葉ヲ束テ枝梢ニ懸ケ又ハ空俵若クハ薄紙ヲ以テ梢ヲ圍フ

二月 方言「マダ」ト稱スル二本唐楸ヲ以テ地上一面ニ耕起ス其深サ三寸内外トス成ルベク土ヲ株根ノ方ヘ寄セ付ケル様ニ注意スベシ又剪枝ヲ始ムベシ

三月 雜草ハ生ズルニ從ヒ年中數回「カキ」又ハ「スキ」ヲ以テ表土ヲ一面ニ草根ト共ニ削リ草ヲ枯ラス就中此月ハ施肥前ナルヲ以テ一層之ヲ勉ムベシ

四月 肥料ヲ施スベシ其方法ハ樹ノ周圍ニ圓形ナル溝形ノ穴ヲ堀リ之ニ鯨粕ノ類ヲ粉ニ碎キテ其溝底ニ散布シ土ヲ以テ之ヲ填ム分量ハ平均一反歩四十貫目内外トシ十年以上ノ盛木ニハ一本一升内内ヲ施ス山嶺ハ比較的多量ヲ要ス又大豆粕ヲ混用スルモ可ナリ植苗モ此季ヲ可トス

五月 除草ハ怠ラズ之ヲ勉メ又地上ニ葉又ハ草ノ類ヲ散布スベシ

六月 除草最モ多忙ナリ

七月 害虫驅除ニ着スベシ其法ハ各樹ノ株根幹部ヲ見廻リ天牛カミキリ龜子虫「俗ニコガ子」及玉虫等ガ株際ノ樹皮ヲ破リテ産ミ付ケタル卵及ビ其孵化シタル幼虫ヲ小ナル刀物ヲ以テ刺シ殺スナリ其稍々長シタル者ハ鉄炮虫トナリテ樹心ニ入レルヲ以テ金線「ハリガ子」ヲ其孔ニ入レテ刺シ殺ス又除虫菊ヲ押シ込ムモ可ナリ油ヲ注入スルモ可ナリ

八月 驅虫法ヲ續行ス多キ土地ハ夏期中ニ六七回モ巡視スルヲ要ス

九月 驅虫ヲ續行ス又ハ枯枝アル所ハ適宜ニ之ヲ切り取ルベシ

十月 除草及枯枝剪リヲ續行ス殘虫ニ注意スベシ

十一月 收穫ニ着手ス其法又部ト短小ナル一種ノ唐剪ヲ以テ莖ヲ莖部ヨリ剪リ取ルナリ顆面ヲ損傷セザル事ニ注意シ右手ノ人指ト剪トノ間ニ顆粒ヲ含マシメテ左手ハ枝ヲ控エツ、巧ミニ之ヲ行フ關東ヘハ箱詰メトシテ概テ大小五種ニ區別シ一々之ヲ排列シテ詰メ込ミ之ヲ送ル一箱凡ソ三貫目以内ナリ瀬戸内地方ヨリ和船ガ買入ニ來リテ積ミ歸ル者ヲ「ゾラシ」ト稱シ一斗二升余ノ桶ニ盛リテ一桶幾許ト直組ヲ爲シ容器無シニテ賣買ス

十二月 採收ヲ續行ス東京及名古屋大阪京都行等有田郡産ノミハ箕島港ニテ汽船丸仕立ヲトス

以上掲グル所ハ専ラ植付以後ノ管理法ニシテ苗木仕立ノ法ハ特ニ詳細記述ヲ要ス然ル苗木ハ初心開園ノ際ハ熟練ナル専門業者ガ已ニ仕立ヲタル者ヲ買入レテ可ナルヲ

以テ茲ニ先ヅ種類ノ一二ヲ記ス

方今新タニ柑園ヲ開カントスルニハ先ヅ種類ノ撰擇ヲ肝要トス第一山畑即チ山腹ノ中段ノ如キ其他乾燥ナル地礫質ノ地ハ温州柑ヲ最適トス平地ハ夏橙又ハ八ッ代ニ宜シク「チーブル」モ亦平地ヲ可ナリトス佛手柑モ平地ヲ好ム斯ノ如ク種類ニ依テ適地ヲ異ニスルヲ以テ一概ニ論ズベカラズト雖モ目今及將來共見込ノアルハ温州ニシテ目下最モ高價ナル「チーブル」ヲレンジナリトス最モ樹木ノ生育シ易ク比較的土地ヲ撰マザルモノハ夏橙ナリトス此種ハ概テ日本全國ニ生育スルヲ得ベシ

以上ノ苗ヲ買入レンニハ三年苗ヲ最上トス三年苗トハ嫁接后三年目ノ春ニナル者ヲ云フ苗ノ成立ヲ畧説スレバ砧木用トシテ先ヅ枳殼核子ヲ九月頃ニ採收シテ冬期間ハ貯藏シテ翌春播下スルモ可ナリ播下后一二回施肥シ其翌春三寸距離ニ假植シテ又施肥シ三年目ノ春及梅雨二回施肥シ四年目ノ春ニ穂ヲ接嫁シ且ツ肥施シタル者ヲ新苗ト稱シ其翌春ニハ二年苗ト稱シ其次年ニハ之ヲ掘リ取テ他ニ植付ケ又ハ更ニ之ヲ假

植出シトス此時ニハ之ヲ三年苗ト稱シ普通農家ノ多ク買入ル、ハ此三年苗ナリ
 本編第四項ニ於テ土塊付キノ苗木ト稱スルハ此三年苗ヲ更ニ他ノ圃場ニ於テ假植出
 シトナシテ二年乃至三四年ヲ經過シタル者ヲ云フ然ルニ接嫁后三年目ノ苗ヲ直チニ圃
 地ニ植付クルモ敢テ不可ナルニ非ズ
 以上述ブル所ハ具ニ概畧ニ止マリ未ダ其一班ヲ盡サズト雖ル本編ハ未ダ稅稿ニ違ア
 ラザルヲ以テ姑ラク他日ノ成文ヲ待ツ

栽培法出版第一次 大阪花谷活版所 明治二十七年刊行 第二次大阪日蓮堂第三次
 湯淺成文堂 第四第五第六第七和歌山池永 第八第九和歌山印刷株式會社
 第十版 明治三十年三月卅日印刷 和歌山印刷株式會社刊行
 第十一回目明治三十一年五月三十日刊行 全 會社印刷出版
 第十二版 明治三十二年五月廿日訂正増補印刷 和歌山印刷株式會社
 全 年 全 月 全 日 發行
 第十三版 明治三十三年十月廿五日訂正増補印刷 和歌山印刷株式會社
 全 年 全 月 全 日 發行

定 價
 三 拾 錢

發 刊 所

和歌山縣有田郡保田村山田原
 無 限 責 任

帝 國 除 虫 園

明治三十六年八月廿五日印刷

明治三十六年八月三十日發行

第十四版

內務省許可

著述兼發行者

和歌山縣有田郡保田村
山田原二百十九番地
御前喜八郎

印刷人

印刷所

全縣和歌山市十二番丁
十三番地
和歌山印刷株式會社
上山巳喜
全縣全市全丁全番地
和歌山印刷株式會社

終